課 題 名	次代を担ういちご生産者の確保・育成
指導対象	★いちご栽培希望者、★紀の川アグリカレッジ研修生、那賀いちご連会員

１．取組の背景・ねらい

那賀地域は、県におけるいちご栽培面積の約40%を占める県内一のいちご産地である。令和4年には、紀の川市がいちご生産者の確保・育成を目的とした研修プログラム「紀の川アグリカレッジ」を開講したこともあり、いちごの栽培希望者が増加している。

一方、いちごは就農に向けた準備スケジュールが複雑でイメージがつかみにくい上、個選出荷者が多いことから若手生産者が情報交換できる環境が少ないという問題がある。また、定植適期を判断するための花芽検鏡数が年々増加しており、検鏡できる生産者の育成が急務となっている。

２．活動内容

（１）いちご栽培希望者への支援

・就農ガイドブックの作成

（２）紀の川アグリカレッジ研修生への支援

・栽培に関する講義と補助事業説明会の開催
・花芽検鏡研修会の開催
・花芽検鏡テキストの作成

（３）若手生産者への支援

・若手生産者コミュニティの形成
・ハウス内環境モニタリング機器の設置と勉強会の開催

３．活動の成果

（１）いちご栽培希望者への支援

いちご栽培希望者から、就農に向けた不安や疑問をヒアリングするとともに、若手生産者の就農事例を収集し、「那賀いちご就農ガイドブック」を作成した。本ガイドブックでは、経営モデルや就農までのスケジュール例、就農時に活用できる補助事業等を8ページにまとめている。いちご栽培希望者7人に対し、本ガイドブックを用いて就農に向けた指導を行ったところ、内容が分かりやすいと好評であった。また、関係機関では就農相談フェア等で活用されており、就農相談への対応力が向上したとの反響があった。

（２）紀の川アグリカレッジ研修生への支援

研修生2人に対し、独自の栽培マニュアルを用いて、いちごの育苗から収穫までの栽培管理に関する講義を計3回行った。また、研修生5人に対し、就農時に活用できる補助事業の説明会を1回開催した。

花芽検鏡ができる生産者を育成するため、令和5年に引き続き花芽検鏡研修会を開催し、研修生4人を中心に生産者10人、関係機関6人に対して技術指導を行った。モニター表示が可能な実体顕微鏡を新たに導入したことで、顕微鏡内の作業が見える化し、生産者4人、関係機関1人が検鏡に成功した。しかし、花芽指数の判断習得までには至らなかった。

また、花芽検鏡技術の早期習得のために技術テキストを作成し、関係機関へ配布した。令和7年度以降、本テキストを活用し、技術指導を行う。

（３）若手生産者への支援

若手生産者の仲間づくりや栽培技術等の情報交換ができる場として、「那賀いちご若手コミュニティ」を立ち上げた。参加条件は、就農５年目までの生産者、農家子弟、将来就農予定者で、19 人の参加があった。コミュニティに対して、グループ LINE による定期的な情報提供や計３回の独自研修会を開催した他、計４回の研修会情報を提供した。

また、若手生産者１人と篤農家１人にモニタリング機器を設置し、コミュニティ参加者が測定データをリアルタイムで確認できる環境を整えるとともに、技術指導や勉強会を開催した。

那賀管内でのいちご作付面積等の推移

	R2	R3	R4	R5	R6
作付面積（ha）	11	10.7	10.4	10	10.4
生産者数※（人）	107	102	98	99	99
新規生産者数（人）	1	1	2	2	10
花芽検鏡数（点）	241	244	327	326	433

生産者数※：那賀いちご連会員数

那賀いちご就農ガイドブック

花芽検鏡研修会

花芽検鏡テキスト

若手コミュニティ発足会

４．農家等のコメント（紀の川市　新規就農者）

・いちご栽培に特化した就農ガイドブックができたおかげで、就農に向けた情報収集が非常に楽になり、不安が軽減した。
・コミュニティに参加したことで、今まで関りがなかった生産者と繋がることができた。また、いちご生産者にとって有益な研修会に多数参加でき、知見を深めることができた。

目　標　管　理	現状値（R5 年）	目標値（R8 年）	年度実績値 1 年目（R6 年）	2 年目（R7 年）	3 年目（R8 年）
新規いちご生産者（人）	1～2（人/年）	12（3 か年計）	10		
花芽検鏡ができる生産者（人）	0	3	0		
若手生産者ｺﾐｭﾆﾃｨ参加者（人）	-	15	19		
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ機器導入者（人）	3	10	6		

担 当 者：嶋本旭寿、上野山浩司、小泉奈美、小野寺真穂、遠田浩平
協力機関：那賀いちご連、紀の川市、JA 紀の里、農業試験場